

月刊 En-ichi 圓一

4
no.263

魂の教育を実践する

インタビュー

「魂のミッション」に目覚める者となろう

明治大学教授 諸富祥彦



日本の家庭を守る教育情報誌

今月の
焦点

人間は、「私の人生はこのためであったのだ」「これをするために私は生まれてきたのだ」という、自分のミッションに気付く瞬間がある。これを見つけることができたとき、人は初めて自分の人生を心の底から肯定できるようになるのではないか。

「魂のミッション」に目覚める者となろう 諸富祥彦…8

子育て新システムと民法改正が実現すれば、「家族あつての子育て」という意識は薄れ、婚外子であるかどうかは問われなくなる。しかし、婚外子を含めて出生率を上げ、社会が子育てするという方法は、ロシア革命後のソ連で実験済みだ。

「総合こども園」がもたらす子育てのコンビニ化…10

「教える価値がより子供の将来・成功に結びつくこと。そして、その価値の深化に対し、数値など目に見える評価を出すことが必要」と見る。これが米国最大の公立チャーター制学校グループが行っている人格教育プロジェクトだ。

より実践的な内容目指す「人格教育」—米国の新しい潮流…16

3	巻頭言 精神性に気付いた日本人の進む道	(社)人間性復活運動本部理事長 三角正明
4	教育再生への課題と展望 誰にも「生きる意味と使命」がある 「魂のミッション」に目覚める者となろう	明治大学教授 諸富祥彦
10	家庭学 「総合こども園」がもたらす子育てのコンビニ化	
12	情報ファイル 児童虐待の被害児童、最多の398人 大学生の基礎的数学力低下が浮き彫り	
14	ワールドアフェアーズ より実践的な内容目指す「人格教育」—米国の新しい潮流	
17	コラム 日本人よ、「団結の力」を取り戻せ	筑波大学名誉教授 鈴木博雄
18	発言 学校教育の忘れもの —数学者ガロアの生涯	哲学者 河端春雄
20	子育ては絵本で大丈夫 「おしゃかさまのたんじょう日」一家の無病息災とこどもの成長を祈る	劇団天童／ 天童芸術学校代表 浜島代志子
21	教育情報 非出会い系サイト被害、初めて減少	ほか
22	Book Review / 読者の声	
24	歴史と伝統の探訪 日本の赤十字運動の先駆者 / 福岡・北海道	



(社)人間性復活運動本部 理事長
三角正明

巻頭言



千年に一度という巨大地震による大津波を東北沿岸の人々の何人もが、小型ビデオカメラで必死に記録した。その現場映像に驚嘆しつつ、日本人は津波の実像を歴史上初めて地元の人々と共有することになった。抗すべくもない圧倒的な津波の力を目にするのは初めてだった。

そして、地震と津波による福島原発のメルトダウン事故。放射線被害からの避難と電力消費の否応ない制限。沿岸に並ぶ五十基以上もの原子炉。地震国である日本がなぜ原発をこれほど造ったのかと、日本人の目から大きな鱗が剥がれ落ちた。今までは、日本の現実が日本人に見えていなかったのである。

天罰と言った知事があった。発言には賛否両論あったが、いずれにしても大自然に生かされているという感謝を見失っていたこと、大自然を軽く見て、経済発展一本槍で走ってきた姿に、日本人はようやく気付かされたのである。

人命の犠牲は大きかったけれど、この大震災がなかったら、日本は何の反省も無くこれまでの生活を続けていただろう。原発も造り続けていただろう。このままで良いのか？という天からの厳しい心が迫る忠告と受け取ることができる。何が大切で、何が駄目なの

精神性に気付いた日本人の進む道

か、ひとごとでなく自分の問題として考える人が増えたと思う。その意味では、この災害は空前の被害を与えると同時に政治、行政、そして国民の在り方を問いつけることになった。

物質生活を追求するだけでは人間としての価値は低いままである。人として生きる上で、何が本当に正しいのかを考え、心の在り方に目を向けていくことが必要となる。精神性の重視に舵を切る時が来たのである。精神生活七割、物質生活三割くらいの気持ちで行くのが妥当ではないのか。

精神生活とは何か。自分の力だけで生きているのではないことに気が付く処からスタートするように思う。大自然の奥にある大きな意思を想定することが人間の土台を作るように思う。昔の人が、天地神明に恥じない生き方を目指したように、自己中心の考え方から多くの人のために動くという利他精神への転換が必要である。

世界第二位の経済力まで上りつめたものの、バブル崩壊後、凋落の憂き目を味わっている。栄枯盛衰は世の習いである。この中で焦らずに、過去の栄光を追うことなく、浮き沈みのない永続性のある着実な社会を目指したい。そのためには、目の前の繁栄を求めないこと。誰もが、人間としての向上を目指す性質（人間性）を持っていることを知って、それを発現させるべく生きていくことにしたい。

誰にも「生きる意味と使命」がある

「魂のミッシェン」に 目覚める者となろう

私たちは「今この一瞬一瞬に心を含めて生きること」の大切さを学んだ。そして、この国全体が大きな祈りに包まれた体験は、消え去ることはない。

今この一瞬一瞬に 心を含めて生きる

——東日本大震災から一年が経ちましたが、ご著書『9つのライフ・レッスン』3・11で学んだ人生で一番大切なこと『実務教育出版』で、「明日死ぬかもしれない」「人生最後の日かもしれない」という思いで生きることが大切と語っておられます。大人はもちろんのこと、子どもたちにとっても重要なメッセージだと思いますが、これを家庭や学校で子どもたちにもどのように伝えればいいと考えられますか。

今は家庭でも学校でも、「将来のために努力しなさい」と言います。しかし、それは少し違うのではないかと思います。

これは「今という瞬間を未来という幻想のために犠牲にする」生き方ではないでしょうか。これを善き生き方として教える親が多いですね。そうすると特に真面目な人であればあるほど、今この瞬間を生きてはいけないのだ、将来のために今を犠牲にしなければならぬのだという思いに陥りやすい。カウンセリングに来られる人の中にも「今この瞬間を犠牲にしなければならぬ」という自己否定に苦しむ人が多いのです。

諸富祥彦

もろとみ・よしひこ
明治大学教授

1963年福岡県生まれ。筑波大学大学院博士課程修了。英国イーストアングリア大学、米国トランスパーソナル心理学研究所客員研究員、千葉大学教育学部助教授を経て、現職。教育学博士。日本トランスパーソナル学会会長、日本カウンセリング学会理事、臨床心理士。著書に『9つのライフ・レッスン』『悲しみを忘れない』『自己成長の心理学』『生きづらい時代の幸福論』他多数。http://morotomi.net/





東日本大震災から1年を迎えた3月11日、宮城県南三陸町の追悼式で自分たちで作詞作曲した歌を披露する同町の小学校の児童ら（時事通信）

しかし、現実として人間はいつ死ぬか分かりません。今この一瞬一瞬に心を込めて生きることが大事なのだということを、私を含めて親や教師はつい忘れがちです。将来のために頑張ることはもちろん悪いことではありません。けれど

も、そのために今というかけがえのない一瞬を犠牲にする生き方を暗に教えてしまっているとしたら、とても残念なことです。

ターミナルケアで有名なエリザベス・キューブラー・ロスが非常に印象的な話を書いています。海が好きで努力してお金を貯めて、美しい海の近くに家を買いました。ところが死の間際になって、その人は「海が見たい」と言うのです。心を込めて海が見たいと。何十年も海のそばに住んでいたのに、心を込めて海を見ていなかったというのです。このように、現代社会には心を込めて今を生きていない人が多いというわけです。

思い残しがないように生きるということとは、一瞬一瞬を大事にするということなのです。

したかったことは 今すぐしなさい

もちろん無計画でいいわけではないし、成り行き任せであって

いわけはありません。ですから私は、「しなくてはならないと思いついたら、二週間以内に実行しよう」と言っています。そして「前からしたかったことは、今すぐしなさい。先延ばしはもうやめにしましょう」「誰かに伝えたいことがあるれば、いつか伝えようではなく、今すぐ伝えましょう」と言います。これは「人生の一瞬一瞬を味わっていいんだよ」というメッセージです。

大震災の後、「今日という一日は、亡くなられた方々が生きたかった一日です」という言葉がありました。まさしくそうだと思うのです。

残された命としてどう生きるのか。ただ長生きをすればいいということではなく、与えられた一瞬一瞬に思いを込めて生きる、味わいながら生きるといことです。私たちはよく、旅行に行つて美しい自然を見ても、次の場所に行く時間のほうが気になってしまいます。この一瞬を味わっていないのです。これはせっかく与えられた命に対する冒瀆ではないでしょうか。一瞬一瞬を大事にすることが、与え

日本人は一度大きな祈りに包まれた。その目覚めの体験が消え去ることはない

られた命を大事にして生きるとい
うことです。

——そのことを親や教師が自覚
して、子どもに伝えることが必要
だと。

子どもに伝えるというより、親
や教師がこの一瞬を味わって生き
ることです。それが全てだと思っ
ます。そうすれば子どもに伝わり
ます。

「人生は喜びに満ちている」
親が子に最初に伝えるべきは、こ
のことだと思うのです。人生の一
瞬一瞬を体全体で喜んでいいのだ
と。

この国全体が 祈りに包まれた

——大震災をきっかけに「絆」が
見直されましたが、それと共に「祈
り」も一つのキーワードになった
と思います。このことにも深い意
味を感じます。

(瞑想のピアニストと言われる)
ウオン・ウインツァンさんが言わ
れたのが、「3・11の後、少なくとも

も一カ月は、この国全体が祈りに
包まれていた」ということでした。
一人ひとりが祈っていたという意
味ではありません。この国全体が
祈りの中に包まれていたというこ
とです。

ただ、私たちはそうした大事な
ことを忘れがちです。それは残念
なことです。

それでも、一度起きた目覚め、心
理学では「集合的な意識変容」と
言いますが、これを体験した私た
ち日本人の心の中から、あの体験
が消え去ることはないと思います。
私たち日本人は、一度大きな祈り
の中に包まれたのですから、その
構えはできました。次はそれをき
ちんと育てていく必要がある。こ
れが教育の大事な役割ではないで
しょうか。

悲しみを忘れない ことも大事

それからもう一つ、私は悲しみ
を忘れないこと、思い出すことも
大事だと思います。

「諦めるな、頑張ろう」と前向き
になるのはいいのですが、悲し
みを忘れないでほしいのです。大震
災のときに亡くなった方の魂が、い
つまでも傍にいたような気持ちで
生きることが大事なのではないで
しょうか。今日という日は亡くな
られた方が生きたかった一日。そ
の感覚を持ちながら生きていくこ
とが、とても大事なことだと思っ
ています。悲しみを、祈りを忘れな
いで。昨年三月から四月にかけて
の感覚を、私たちは繰り返し胸に
刻み込んでいく必要があると思っ
ています。

教師の方々にもぜひそのような
授業をやっていたきたいのです。
もちろん経済復興も大事です。し
かし私たち日本人はもっと大きな
ものを学んだはずで。それは大
きな悲しみ、大きな祈りです。そ
のような大きな悲しみ、大きな祈
りに包まれたということを何度も
思い起こさせるような授業が大切
だと思えます。

よく「心に響く授業」と言いま
すが、この問題に関しては浅過ぎ

大きな悲しみ、大きな祈りを 思い起こさせるような、「魂が うち震える授業」を

る言葉です。「魂がうち震えるよう
な授業をやって下さい」と言いた
い。先生自身が言葉に詰まって泣
き出しても構わない。子どもたち
も泣き出して、言葉にならなくて
も構わない。皆がうち震えるよう

な授業を、年に一度はやるべきで
はないでしょうか。

日本は東日本大震災の後、全国に
大きな祈りが包まれた被災した
町を前に手を合
わせた人たちの写
真を掲載した昨年3
月18日の米FOX
ニュース(同ホーム
ページより)

The screenshot shows the FOX NEWS website interface. At the top, there is a search bar and the text 'ON AIR NOW'. Below the navigation bar, the main article is titled 'In Secular Japan, Many are Turning to Prayer to Deal With the Crisis' by Lauren Green, published on March 18, 2011. The article features a large image of survivors in a devastated town of Onagawa, Japan, with their hands clasped in prayer. To the right of the article, there are sections for 'LATEST VIDEOS' and 'MOST ACTIVE' news items. The 'MOST ACTIVE' section lists several headlines, including 'Radiation Level in Japan Seawater Millions of Times Above Legal Limit' and 'Report: Ecuador Demands U.S. Ambassador Leave Country Over WikiLeaks Cable'.

泣きながら訴えた授業

というのも、新潟のある先生が話してくれたのですが、大学生に「小中学校の道徳の授業で覚えていることは何か」と聞いたところ、「何もない」という学生がほとんどだったそうです。それでも、こういう授業があったというのです。先生自身、どうしても伝えたいことがあった。でもどのように伝えたらいいか分からなかった。先生は「これなんだよ!」と黒板を叩きながら、泣きながら訴えたというのです。

十年後に生徒たちが集まったとき、異口同音に「あの授業だけはつきり覚えていて」と言ったそうです。あの授業で先生が何かを伝えたかったという気持ちは生徒の中に今も残っている。私はこれが教育だと思っております。

授業のテクニクではありません。自分の魂をうち震わせながら語れば、子どもたちの魂も震えてくる。これは何よりも大事なこ

「これをするために私は 生まれてきた」という、自 分のミッションに気付く 瞬間がある

ではないでしょうか。

「魂のミッション」 とは何か

——また、先生は「魂のミッション」という発言をしておられますが、どういう意味なのでしょう。

「人格をどう捉えるか」というとき、縦軸（垂直軸）と横軸（水平軸）という二つの軸で捉えることができます。つまり、横軸が他者とのつながりや社会とのつながり、縦軸が自分の内面と向き合う方向、それから人間を超えたもの、大いなるものとのかわりです。

これは道徳教育で言う四つの視点とほぼ重なります（「一、主として自分自身に関すること」「二、主として他の人とのかわりに関すること」「三、主として自然や崇高なものとのかわりに関すること」「四、主として社会や集団とのかわりに関すること」）。

四つの視点の中には、一つだけ次元が違うものがあります。人格形成、あるいは道徳の根幹にあつ

て、それを基礎づけているメタレベルのものとは何かというと、三の視点だと思うのです。つまり人間を超えたものとのかわり、いわゆるスピリチュアリティです。

スピリチュアリティは日本では誤解されやすいのですが、「人間の心の最も深い層の働き」という説明が一番分かりやすいと思います。

スピリチュアリティを日本語に訳すとすると、「精神性」でも悪くはないのですが、ぴたりとくるのはやはり「魂」です。人格形成の最も根幹にあるのは魂の教育、魂の育成である。これが最も重要だというのが私の考えです。

——誰にも魂に刻まれたミッションに生きる意味と使命があると言われていますが。

本当の意味の個性というのは、自分の心の深いところから湧き上がってくるものだと思います。それを「魂のミッション」と呼んでいるのです。

プラトンが想起説で言っているように、本当に大切なものは何かを、魂は生まれる前から知ってい

るというのです。人間は、「私の人生はこのためにあつたのだ」「これをするために私は生まれてきたのだ」という、自分のミッションに気付く瞬間がある。そのときに、新たに発見したような、同時に知っていたことを思い出すような感覚を覚えます。知っていたはずはないのですが、そのような感覚を抱く。これが魂のミッションだと思うのです。これを見つけることができたとき、人は初めて自分の人生を心の底から肯定できるようになるのではないか。これが私の考えです。

大きな苦しみや 喜びを体験して

例えば生きがいとは横軸になりませんが、魂のミッションは縦軸でも横軸でもありません。内面の最も深い層に刻まれたものです。単なる生きがいとは全く違います。もっと重い。人生において一度か二度味わうことができるかどうかというものです。「自分の価値に気付く」

日本人は偉大だ

いちばん心に響く！ 世界に誇る20人の生き方

杉原千畝
望月カズ
新渡戸稲造
西岡京治

朝河貫一
野口英世
鈴木大拙
ラグーザ玉

織田樞次
今西錦司
新島 襄
ほか

学校でも
ちやんと
教えて
ほしい！
日本の心



誇りと自信が湧いてくる！

増子岳寿 著 四六判 / 246頁 1680円

ご注文は書店へ、お急ぎの方は下記へ

コスモトゥーワン

tel.03-3988-3911 fax.03-3988-7062
http://www.cos21.com
〒171-0021 豊島区西池袋2-39-6-8F

ということとも違います。自分の価値に気付く機会は何度もありません。自分も人の役に立てたというように。それはとても大事なことです。ただ、それも魂のミッシヨンという言葉で言いたいこととは違います。

これは体験して初めて理解できることかもしれません。ユングはシンクロニシティと言っているのですが、大きな苦しみや喜び、思ってもみなかった出会い、そういった体験を持つ人ほど、「これが私のすべきことだったんだ」という大きな目覚めが生じるという気がしています。

魂のミッシヨンに目覚めることができる人は、苦しみが大きい人。あるいはとても大きな喜びを体験した人。そういう人が「これが私のすべきことだったんだ」という大きな目覚めに導かれやすいという気がします。

時代の風潮を脱するために

それは宗教的な体験とは違うのでしょうか。

違いますね。特に宗教を信仰していない人でも、魂のミッシヨンに気付く人はいます。「これをするた

めに生まれてきたのだ」という心の底からの目覚め、人生で一度あるかないかの深い体験です。人間は絶えず見えない何かから、その道に進むように呼びかけられているような気がします。しかし真摯に、本気で生きていないと気付くことはできない。惰性で生きていたら、一度も気付かず生を終えていくことになると思います。

時代の風潮で言うと、現代は八割の人が軽うつ状態です。そういう状態を脱するためには、魂の次元、スピリチュアリティの次元につながっていくことが、唯一の回復方法だと私は思っています。E

政府子育て支援策の問題点

「総合こども園」がもたらす子育てのコンビニ化

政府は三月、「総合こども園」導入を柱とする子育て支援策を決定し、国会で法制化に向け動き出した。だが、小宮山洋子厚生労働相が意欲を示すこの制度は、子育ての主体を母親から社会に移行させるほか、婚外子の社会的容認へ布石を打つものとなっている。

ジャーナリスト・小山昭男

婚外子容認が本音

政府は一月二十日、「子供・子育て新システム」に関する基本制度を議論する会合を開き、その最終案を了承。さらに少子化対策会議で三月、同案を正式決定、今通常国会に提出する構えだ。

この「新システム」は、従来の保育園と幼稚園を合体させて「総合こども園」を作るといふもの。幼稚園が少子化で空きが生まれている一方、働く母親が子供を預ける

保育園の方は、待機児童が増加。両者を一つの施設にすることで、社会的ニーズに応えようというわけだ。

小宮山厚労相は、保育サービスと幼児教育の両方が行え、より上質なものになる、とアピールするが、実は危険な狙いが隠されている。

小宮山氏は、一月下旬、テレビの報道番組に出演し、この新システムの価値を絶賛。そのうえで、「家族の価値がどうの」という人たちが無

くせない」と述べ、日本は婚外子が極端に少ないが、その民法上の扱いを平等にすることで出生率を増やせるとアピールした。

さらに、婚外子への民法上の差別を無くすようにと国連から言われている、とも発言。わが国は、国連の児童権利条約を不必要に調印し、その後、国会で批准。批准した国（締約国）は、数年に一度、国

連児童権利委員会に、現状報告を提出しなければならない。その報告書に基づき、左翼勢力が牛耳る同委員会は、日本に「婚

外子に対する差別をしており、これを是正すべきだ」と勧告。小宮山氏の発言は、これを指したものだ。

子育て新システムと民法改正が実現すれば、「家族あつての子育て」という意識は薄れ、婚外子であるかどうかは問われなくなる。

米ソが失敗した政策に突き進む

しかし、婚外子を含めて出生率を上げ、社会が子育てするという方法は、ロシア革命後のソ連で実験済みだ。若者の犯罪が増え、国家の屋台骨がグラ付くようになりスターリンが軌道修正したほどだ。

また米国でも、六〇、七〇年代の左翼的な性解放論者の影響でフリーセックスが蔓延。望まない妊娠が激増し、シングルマザーへの手当てが膨大となった。

このため、九〇年代後半、民主党のクリントン大統領（当時）でさえ、その社会保障費を抑制するため、共和党が提案した福祉改革

法案に賛成し、結婚まで性交渉を控える自己抑制教育を支援するようになったのである。

すでに失敗し、大混乱をもたらすことが明らかな政策に、小宮山厚労相は突き進もうとしているのだ。

子供を預ける母親の感覚からしても、このシステムには問題が多い。保育園は、これまで市町村が審査して入園を許可していたが、「総合こども園」制度では、保育市場が自由化されることになる。

このため、園児の安全性に対して市町村の責任がなくなる。「総合こども園」になれば、応益負担、直接契約、時間預かりなど、認可外保育施設と同じ仕組みになり、子供の安全面を懸念する声が上がっているのだ。

働く大人だけが好都合

今回の新システムで、強制的に幼保一体化が進められる。保育園の規定を定めた児童福祉法改正や、「総合こども園」法の制定が新たに

必要だ。

しかし、幼稚園の中には、経験のない〇〇二歳児を預かることに難色を示している所が多く、「総合こども園」ができて、それほど、待機児童数を減らすことには繋が

らない。加えて、名門幼稚園といわれるところは、そのまま幼稚園として残る。制度の簡素化には程遠い。

問題なのは「新システム」により、いつでも、どこに住んでも、必

要な時に子供を預けられるという「子育てのコンビニ化」が目標になっている点だ。

子育てを効率化することは、大人が働くには好都合かも知れないが、子供は全く望んでいない。母親に愛情深く育てられるべきであるのに、新システムで、「社会」に育てられることになる。

要するに、母親が、子育てよりも「総合こども園」に子供を預けて労働に専念。その結果、税収がアップするというモデルが想定されている。実際、消費税5%アップによる税収増のうち、総合こども園整備のための財源として七千億円が当てられる。本末転倒のやり方だ。

これまでノウハウが確立していた保育園や幼稚園をガタガタにしてしまう「新システム」。すでに、試みられて失敗しており新しくもなんとも無い。断固、国会での可決を阻止する必要がある。E



「総合こども園」の政策はノウハウが確立している保育園や幼稚園を混乱させてしまう

児童虐待事件

被害児童、最多の398人

虐待連鎖防止へ、家庭的環境での養育にシフト

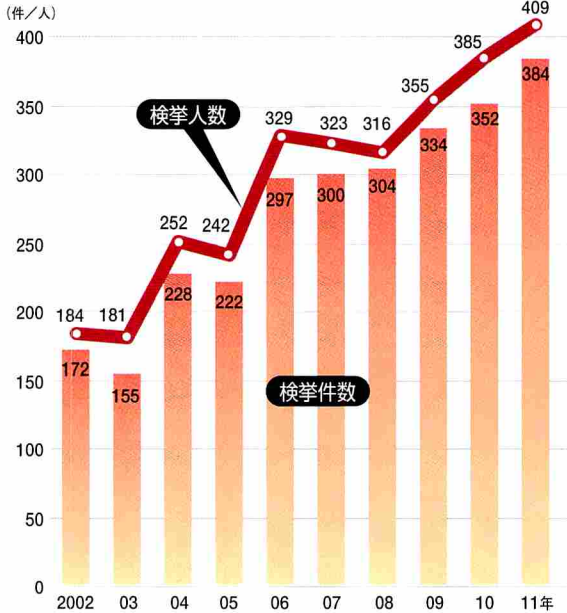
今年二月、母親の交際相手である男性（二七）の東京・新宿区の自宅で男性から虐待を受けた四歳児が病院搬送後、死亡するという事件が起きている。

また二〇一一年中に虐待によって死亡した児童数は六人増の三十九人に上った。虐待死亡事例の半数以上は児童相談所など行政が関わっていたが、防げなかった。

若年結婚・出産した未熟な親が、不安定な夫婦関係、脆弱な家族と地域のつながりのなかで、虐待を引き起こす場合が多い。

加害者自身が幼い時、虐待を受けているケースが見られる。現在、虐待などで親と暮らせない子供たちの九割は、児童養護施設などの施設で暮らす。虐待の連鎖を防ぐには、何よりも家庭的環境で愛され愛することを学ぶことが大切だ。従来の施設から里親・ファミリーホームなどの家庭的環境へシフトさせていく方向だが、里親女性による傷害致死事件が発覚するなど、課題も多い。

児童虐待事件の検挙件数と検挙人数



被害児童数



警察庁まとめ

未熟な親が子供に食事や水も与えず長期間放置、遺棄するなど、子供を死に至らせる残酷な虐待事件が後を絶たない。警察庁のまとめによると、二〇一一年の児童虐待事件検挙件数は前年比九・一％増の三百八十四件で、この十年で二二

倍に増加。検挙者は四百九人（同六・二％増）、事件に関わる被害児童数は三百九十八人（同一〇・六％増）で、いずれも統計を取り始めた一九九九年以降、最多となった。被害の内容は身体的虐待が二百七十件で全体の七割を占めたほか、

性的虐待が九十六件、ネグレクト（育児怠慢・拒否）が十七件、心理的虐待が一件。虐待の加害者は実父母が全体の六割を占めるが、「養育者」や「母親の内縁の夫」など、血縁者以外の男性による虐待が目立つ。

数学基本調査

大学生の数学力低下浮き彫り
「論理性育む教育の充実を」

日本の大学進学率は五〇%を超え、「大学全入」の時代を迎えた。競争が緩和され、大学の共通課題

となつていのは大学授業の前提となる学力不足の問題だ。日本数学会が初めて行った「数学基本調



査」では、改めて大学生の基礎的数学力の低下が浮き彫りになった。調査は昨年四月～七月、全国四十八大学の学生約六千人を対象に行われた。

それによると、小学生で学ぶ「平均」の考え方を大学生の二四％が理解せず、また中学生で学ぶ整数の理解を問う「偶数と奇数の和が奇数になる」証明を明快に記述できる学生は稀だったという。ただ国公立大学の偏差値別、学系別で見ると正答率にかなり大きな開きが見られた。

授業時間と内容が三割削減されたゆとり教育世代を中心に、論理的文章を理解する力、論理を組み立てて表現する力が失われていることへの危惧が今回の調査につながったという。

今、大学選抜方法は多様化、新

入生の半分は一般入試を経ない、アドミッション・オフィス（AO入試）や推薦などで入学している。さまざまな学力レベルの学生が一緒に学ぶ状況下、二〇〇〇年代から初年次補習授業を行う大学が増えてきた。同学会理事長の宮岡洋一（東京大学教授）は「ゆとり教育と学力試験を課さない推薦入試の拡大が学力低下に拍車を掛けた」と述べている。

日本数学会では「数学は科学・技術を支える基盤であり、数学教育が育む論理力は国際交渉でも不可欠」とし、「中等教育では証明問題を解かせる等、論理性を育む教育を充実させる」、「大学の数学入試問題はできるだけ記述式にする」とを提言している。

理数系研究者の層の薄さが指摘されるなか、科学技術立国日本を見据えた、理数科教育の充実が強く願われている。

各州で評価される 人格優秀校

毎年二月から三月にかけて、米国では、学業が優秀な学生を多数輩出したり、大きな地域貢献を果たしたりした学校に対して、表彰が行われる。地元の新聞やテレビなどは、この情報を逐一、住民に報道するわけだが、最近はこちら表彰校の中に「人格優秀校」も含まれるようになった。

一例として、ミズーリ州ローデーの地元紙「ローデー・フロンテナック・パッチ」二月二十二日付に載った記事を見てみよう。

同記事は、「ミズーリ州人格優秀校、発表される」との見出しで、地元公立中学校が優秀校リストに入っていたことを知らせるもの。表彰された人格優秀校はいずれも、全校生徒の中で、いじめや怠学などの反社会的な行為がなく、教師・学生間がよく協同し、学内・学外活動で社会貢献を果たしていた。そして、学校のみならず、生徒の保

護者の協力姿勢も選考の対象とされていた。

「人格優秀校」表彰は、保守的な中西部だけでなく、リベラルな社会風土の東海岸や西海岸でも盛んだ。州民の反応を見ても、教育熱心な親が多いニューヨークやニュー

ジャージーでは、「人格優秀校」に選出された公立学校は翌年になる

と、その学区に引越してくる保護者が膨れ上がる。ニュージャージー州のある公立高校教師は、親は子供を人格的に鍛え、より責任感ある市民に育てようとする学校

ワールド・アフェアーズ

より実践的な内容 目指す「人格教育」

—米国の新しい潮流

規範の順守や人格の陶冶を前面に打ち出すことで、青少年の健全な育成を目指す「人格教育」。発祥の地の米国では今、各州の公立学校で道德教育の柱として受け入れられ、さらに実践的な教育として生まれ変わりつつある。

ジャーナリスト・内田宏

教育システムに「魅力を感じている」からだと言っている。

市民権得た「人格教育」

「人格優秀校」を表彰しようとする試みはもともと、全米規模の人格教育団体「人格教育パートナーシップ」(CEP)からアイデアを拝借したものだ。全米各州の教育委員会は、子供に内面の道徳律や規範の重要性を説くCEPの理念を基に、学校で道德教育を推進する外郭団体を設立。これらの団体は、学校環境の中で子供たちのより良き人格育成を目指している。今ではすっかり市民権を得た感がある人格教育プログラムだが、「割れ窓理論」で有名なジェームズ・ウィルソンらによって提唱された当初は、保守・リベラル派双方から「型にはめる教育は全体主義的」と受け取られ、疎まれていた。

しかし、教育現場の荒廃とそれに伴う社会制度の不安定化に頭を悩ませていたクリントン政権が教育改革の一環として、人格・規範

教育を積極的に推進。ブッシュ政権には、「ノー・レフト・ビハインド」(落ちこぼれゼロ)政策の一部として、各州の公教育に取り入れられ、人格教育への期待が一気に高まった。

ところが、オバマ政権になって振り子の揺り戻しが来る。ブッシュ氏自体の不人気などもあり、前政権の外交・内政施策の多くを否定しようとする動きが強まったのだ。それまで推し進められていた人格教育プログラムにも懐疑の目が向けられるようになり、教育省自体が検証せざるを得ない事態に陥る。

「理念」よりも「行動」を重視

二〇一〇年十月、教育省は「小学生児童における社会的・人格的發展促進及び問題行動の抑制に関する全校プログラムの有効性について」と題した報告書を発表した。このレポートは六百五十六ページにわたり、全米で実施されている七つの代表的な人格教育プログラ

History
Five Pillars
Results
: Annual Report Card
: College Completion Report
: Mathematica Study
: Independent Reports
The KIPP Foundation
: Initiatives & Impact
: Our Team
: Board of Directors
: National Partners
: Contact us
Careers
KIPP Videos
Support KIPP
: Donate Now
: Match Your Gift
: Support KIPP Offline

About KIPP
Who We Are

The Story of KIPP

新たな人格教育プロジェクトで注目される米国最大の公立チャーター制学校グループ「KIPP」のホームページ (<http://www.kipp.org/>)

する)の管轄とされたことから、ブッシュ色の強かった人格教育をまずは否定し、「オバマ風に」カスタマイズすることを目的に、「結果ありき」の統計抽出や分析方法で「人格教育効果なし」を引き出した可能性もうかがわせるものだった。

一方、人格教育推進派は「変えるべきは変えることが必要」(保守派評価機関「評価調査研究所」のスタン・ウイード所長)との姿勢で、人格教育の新たな潮流を生み出しつつある。「理念」よりも「行動倫理」を重視した人格教育プログラムの登場である。

「徳目の数値化」に高まる関心

ブッシュ政権時代、人格教育プログラムの多くは、自他への「尊敬、責任、信頼、正直、公正、寛容、勤勉、節制、貢献、正義」などの道徳律を教えることに比重を置く「理念先行型」だった。ただ、これでは結果との因果関係がよく見えないとの指摘もあった。子供

ムを検証。プログラムが人格形成や危険行動の軽減に対し、「児童に与えた影響は、ほぼ皆無に等しい」との結論を導き出した。

この検証は、米教育科学研究所(IES)や疾病対策センター(C

DC)など、連邦政府の専門家が担当。複数年にわたって児童に対する追跡調査が行われた。

しかし、教育省による人格教育プログラムは、より包括的な部署(学校安全や違法薬物対策も任務と

の素行が良くなり、成績が向上しても、内面の深化がどう関わったか客観的事実として評価しにくいというわけだ。

先の調査が人格教育プログラムを否定する根拠にしたのも、この点にある。このため、人格教育推進派からは、「教えるべき価値がより子供の将来・成功に結びつくこと。そして、その価値の深化に対し、数値など目に見える評価を出すことが必要」という考えが生まれてくるのは当然だ。これが米国最大の公立チャーター制学校グループ「KIPP」が行っている人格教育プログラムジェクトだ。

ニューヨーク市サウスブ

ルクリンから始まった同グループは現在、全米二十州で九十九の学校を運営するが、子供の成績を学業以外に、「熱意」や「楽観性」「根性」「自己抑制」など七つの実践的徳目を五段階で評価。これら



To and through college
KIPP alumni are proving that demographics do not define destiny. [Read more >](#)

プログラムは大学進学への成果も上げている＝KIPPのホームページより

の徳目を「人生の成功に欠かせないもの」と教える。しかも全教師が授業の中ではなく生徒たちとの対話で、こうした「行動倫理」の大切さを理解させようとしている。「徳目の数値化」は一昨年度から

だけでなく、一般の公立小中学校でも取り入れる所が出てきており、新たな人格教育運動の動きが高まっていることを示している。目

試みられているが、リベラルな教師組合など一部には、「人格の数値化は非人間的」「生徒らの可能性、人格を否定している」との声が上がっている。しかし、保護者からは「子供のどこがよくなかったのか」「子供を良くするにはどうすればいいのか」と問い合わせが殺到（二〇一一年九月十八日付ニューヨークタイムズ日曜版）。関心の高さを示している。この評価方式はKIPP校

心豊かな思春期を送るために 愛と性の尊厳

乱れた性情報が氾濫する中、愛と性をまじめに語る本

賀久はつ（助産師） 中山尚夫（産婦人科医） 石崎淳一（心理学准教授）

発行／アートヴィレッジ 受注センター TEL:078-882-9305 FAX:078-801-0006

人間性教育読本
心豊かな思春期を送るために

愛と性の尊厳

賀久はつ 助産師
中山尚夫 産婦人科医
石崎淳一 心理学准教授

A5 2色・144頁 1050円（税込）

日本人よ、「団結の力」を取り戻せ

ソウルの国際会議で

去る一月二十一日から四泊五日で韓国ソウルで開かれた、思想的なリーダーが参加して世界平和への取り組みを話し合う国際会議に参加した。日本からは哲学者や思想家、さらに仏教、神道などの関係者の顔も見えた。会議場には中東からのイスラム教徒らの姿が目立った。北東アジアからモンゴル、ロシアの参加があったのも珍しかった。中国を除けば、ほぼ世界の主要国や民族の代表が一堂に会した国際会議であった。

参加者たちは、交々立って自国の思想、宗教の状況について語り、それと関連して政治、経済の現状についても言及した。彼らは夫々

の立場から心を込めて平和への願いと努力を訴えていた。会議は人類が直面している世界平和への危機について、国や民族、人種の壁を越えて、人類が一つになって平和への努力を地道に積み重ねていくことが何よりも大切であるという申し合わせをして終了した。

また、新興国からの参加者が積極的に世界平和について発言しているのが注目された。今日では米国など先進国のリードで会議が進行するというパターンが消失し、先進国と新興国、アジアとアフリカ、中東などの諸国、諸民族が自由、対等に発言している。正に国際会議そのものが今日の国際情勢の縮図のようであった。

ただ一つ気になったことは、会議を通じて「ジャパン」という語

を聞く機会が極めて稀であった点である。会議では日本人の発表もあったにも拘らず、日本が軽視、あるいは無視に近い態度で見られているように感じた。国際社会における日本の存在感が徐々に弱まっているのではないかという危惧を持った。

国民の絆の強さで

私は会議の余暇を利用して、ソウルの繁華街を散策した。ちょうど韓国では陰暦の正月に当たっていた。寒風の中にも拘らず、街行く人の身なりは東京とあまり変わらず、持ち物などを含めて生活水準も同程度と思われた。

夜、宿舍のロッテホテルの窓から市街を見下ろすと、眼下に自動車の流れが絶え間なく続き、林立する高いビルの灯りが市街を照らし出している美しい光景であった。

今度のソウル旅行を通じて、韓国が着実に発展しており、日本に追いつき追い越すところに来ていることを改めて率直に感じた。そ

こには、今の日本には見られない精神文化の強さと活力があった。現実に産業、経済の分野では、自動車やテレビで日本を抜いていち早くアジア、アフリカの新興諸国に販路を拡大している。

日本の力は個人の力だけでなく、個人が集まった時に発揮する団結の力にある。戦後、個人の自由が叫ばれる中で団結の力が消え去り、ついには個々ばらばらの群衆社会になってしまった。経済が自然の勢いで高度成長している時はそれでも良かったが、いざ不景気になってくると、団結のない社会は弱い。個々人に直接の被害が及んでくる。この日本社会の特性を考えると、どうしても精神文化の振興を図り、国民の絆の強さによって十の力を十五にする社会を招来しなければならぬのである。■



筑波大学名誉教授
鈴木博雄

学校教育の忘れもの

数学者ガロアの生涯

「正答主義」で進められる授業では、獨創性が生まれにくい。後に大数学者と言われるガロアは、そこに疑問をぶつけたという。

「正答主義」の授業では劣等児になる子も

戦前の小学校では五年生になると、新しく「国史」（日本史）が教科として加わった。まったく私自身の個人的体験に過ぎないが、「国史」の授業で教えられる、いわゆる皇国史観に私は少年らしい素朴な疑問を感じ、ある日の授業中に、そのことを質問してみた。国粹主義者をもって任じていた担任教師から、「そんなことを考えているようでは、中学（旧制）には入れない……」と一喝された。

いうまでもなく、学校教育において「知識」は授業によって教えられる。単純化して言えば、授業は「正答主義」の考え方によって進められる。つまり、教師は授業にあたって一つの「正答」をもって始めるのだ。もし子どもの「反応」が、その正答に合致すれば強化され、合致しなければ誤答として切り捨てられる。

だが、この場合の「正答」とは真実がどうかということとは関係なく、教師の常識とか、あるいは教科書に書いてあるから教師が正しいと盲信しているものに過ぎない。たとえば、エジソンだったかニュートンだったかの少年時代の逸話が物語っているように、すぐれた能力を持った子どもたちの中には、 $1+1=2$ ということさえ簡単に認めない者がいる。「正答主義」の授業では、彼らは叱責され、劣等児のレッテルを貼られてしまうのだ。

このように考えてみると、「正答」の強化、誤答の切り捨てというかたちで授業を進めることは危険だ。だが、このようなタイプの授業は、わが国の学校教育を決定的に支配しているのではないか。言い換えれば、それは「詰め込み主義」教育の典型的な形であり、受験戦争を勝ち抜くための、もつとも効果的な授業のやり方だといえる。

物理学者で、すぐれた啓蒙家でもあったL・インフェルトが、生きると描き出したエヴァーリスト・ガロア（一八一―一三二）の生涯は、今日の教育を考える手掛かりとしても、まことに興味深い。少年期から青年期にかけての彼の成長、それに対する学校教育のあり方という問題に限っても、私たちに多くの問題を投げかけている。

「獨創性が認められなくなる」

「比肩すべくもない巧妙さで美を退屈に変え、論理と推理を独断に変じ、またギリシア神殿を瓦礫の

河端春雄
哲学者



にほかならない。

堆積と化せしめるやり方」―これが、学校教育のやり方にほかならなかった。一八二〇年代のルイ・ル・グラン中学校における教育のやり方だった。そこでは、たとえば幾何学の授業といっても、ラテン語やギリシア語の詩句を学習すると同じやり方で、ひたすら命題を読んで暗記するだけだった。幾何学の精神は、みごとに歪められていた。

上級学校に進学するにあたって、試験官が受験生に要求するのは、「何事も、ばかげた教科書に書いてあるのと寸分たがわず説明するように、彼は要求しました。独創的な考えや独創的な説明の仕方を、彼は犯罪だと考えるのです」と。一八二八年、フランスのレコール・ポリテクニク(高等理工科学校)の入試に対するガロアの批判であるが、この学校はフランス革命の産物であり、フランスの誇りでもあったが、すでに独創性は許されなかったところになっていた。

このような学校教育や入学試験のあり方に疑問をいだき、激しい



『ガロアの生涯―神々の愛でし人』(日本評論社)

怒りをぶつけ、わずか二十歳で決闘で撃たれて死んだ四十年後に、ようやく大数学者として認められたガロアは、とくに代数については、入学しようとする学校の数学教師の知識を全部あわせたよりも、よく知っていた。ガロアは、黒板ふきを試験官の禿頭めがけて投げつけたが、教師が学生の才能を正しく評価できるかどうかという重大な問題がある。

インフェルトは、ある物理教師がガロアに下した評価を、「教師の盲目と愚鈍とに対する記念碑だ」と

述べている。その教師はガロアについて、「余に対する応答不良なりしは、この生徒のみ。知識皆無なり。数学的才能をもつと聞きおよびしが驚くの他なし」と、記していたのである。学校教育が画一化されると、このような盲目と愚鈍が教師の間に広がり、学生の個性と才能を開花させぬまま、埋もれさせてしまうことになる。

だが、ガロアを認めて、彼の勉学を励ました人もあった。一人は父親であり、もう一人は中学校のリシャルという数学教師だった。

この二人に共通していることは、対等の人格に向かうときのような態度で少年ガロアに語りかけたことだ。

記憶力だけでは 創造性は生まれない

天才ガロアの生涯が、現代に語りかけていることの一つは、人間の記憶力だけでは創造性は生まれないということだ。もし、記憶力だけが新しいものを発見させたり、発明したりするのであれば、暗記力のすぐれた人が同時にすぐれた発明家となるはずだが、必ずしもそうではない。むしろ、真に新しいものを創造する天才は、暗記力などは、それほど優れてはいない。では、そのような創造を行うものは何か。

「創造的知性」―学校教育の忘れものにほかならない。Self Learning という言葉をキーワードとして、市井三郎訳『ガロアの生涯―神々の愛でし人』(日本評論社)の一読をすすめたい。■

子育ては＊絵本で＊大丈夫



浜島代志子
劇団天童／
天童芸術学校代表

一家の無病息災、こどもの無事と成長を祈るはな祭り

「おしゃかさまのたんじょう日」

四月八日は、はな祭り、お釈迦様のお誕生日をお祝いする日です。イエス様のお誕生日をお祝いするクリスマスは誰でも知っています。が、はな祭りのことは案外知られていないようです。

表紙を見ますと、咲き乱れる花の中に右手を天に左手を下にさした幼な子が優しいきりつとした顔で立っています。ページをめくってゆくと、赤を基調にした華やかで力強い絵が展開されます。これだけでは物語がわかりませんね。絵本は絵と文が五分五分の力を発揮しますから、文を追うだけでなく絵を読む力が必要なので、おとな



「おしゃかさまのたんじょう日」
谷真介／文 赤坂三好／絵 佼成出版社刊

が感性を磨いておかなければなりません。知識ではなく感性、直感力で。

◆ ◆ ◆

インドのヒマラヤのふもとのカピラの国王は、争いを嫌い、人々は幸せに暮らしていました。したが、世継ぎの王子がいらないので誕生を待ち続けていました。ある夜、お妃は不思議な夢を見ました。牙が六本ある白い象が光り輝きながら天から舞い降りてきてお妃のお腹の中に入ったのです。「六本牙の白象は神の使い、来春、王子が生まれる」と占い師の言ったとおり王子が生まれるのですが、普通の生まれ方ではないのです。里帰り出産の旅の途中、甘い花の香りに誘われてお妃が手をさしのべた時、脇の下から生まれ出たのです。

神様が現れて、王子の誕生を告げます。赤ちゃんは金の天輪をい

ただいていますし、寝かせようとするとすつくと立ち、前後、左右に七歩ずつ歩き、天と地を指し「天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）」と、清らかな声で言いました。

天から甘い飴が降り、草木がいつせいに花開き、人も動物も喜びがわき上がり、手を合わせ跪きました。

神の申し子の王子は、王の後を継いだかというところではありません。占い師の言うとおり城を出て坊さんになり、世界中の人を救ったということです。

◆ ◆ ◆

お釈迦様の誕生を祝う行を灌仏会（かんぶつえ）といい、「はな祭り」という名で親しまれ、父母や先祖に感謝し、農作業の無事を祈る春の民間行事として暮らしの中に定着しました。古きを尋ねて新しきを知る良い絵本です。■

非出会い系サイト被害、初めて減少

警察庁のまとめによると、昨年の出会い系サイトによって児童が犯罪被害に遭った事件の検挙件数は千四件（前年比二・〇％減）、非出会い系と言われるコミュニティサイトに係る事件の検挙件数は千四百二十一件（同七・八％減）に上った。

被害児童は、出会い系サイトによる被害が二百八十二人（同二〇・八人、一・一％増）、コミュニティサイトによる被害が千八十五人（同百五十四人、一・二・四％減）だった。出会い系サイトの被害児童は二〇〇六年から年々減少していたが、コミュニティサイトによる被害

児童は統計を取り始めた二〇〇八年以降、初めて減少した。大手サイトの監視体制を強化したことが原因と見られる。

児童ポルノ事件は過去最多

警察庁のまとめによると、昨年の児童買春・児童ポルノ禁止法事件は二千二百九十七件で、前年よ

り一件増えた。

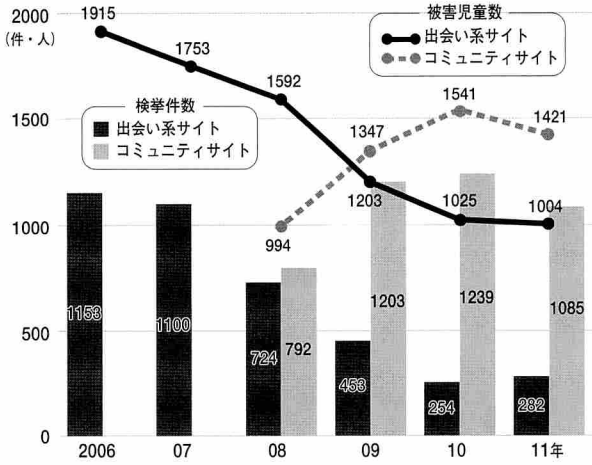
このうち児童ポルノ事件が千四百五十五件（前年比八・四％増）、送致されたのは千十六人（同九・七％増）、被害児童は六百三十八人（同三・九％増）で、いずれも過去最多となった。被害児童のうち、中学生が二百四十六人、高校生が二百四十八人、小学生以下が百五人だった。



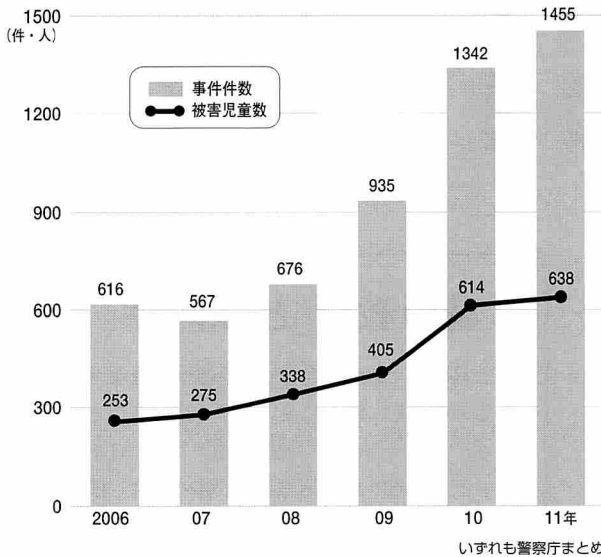
エイズ患者・感染者、年間で1486人

エイズ動向委員会のまとめによると、昨年一年間の国内の新規HIV（エイズウイルス）感染者は千九人で過去五番目、新規エイズ患者は過去最多だった前年から二人減って四百六十七人だった。患者・感染者の合計は千四百八十六人で過去四番目になっている。これまで最も多かったのは二〇〇八年の千五百五十七人。

出会い系サイトとコミュニティサイトに関わる事件と被害児童数



児童ポルノ事件の件数と被害児童数



13歳からの道徳教科書

道徳教育をすすめる有識者の会・編
／育鵬社／一、二〇〇円（税込）



道徳教育をすすめる有識者の会が四年がかりで編纂、発刊した。

国内外の人物の生き様がモデルとして取り上げられている。西郷隆盛、光明皇后、二宮尊徳、聖徳太子、上杉鷹山、小林虎三郎（米百表）、濱口梧陵（稲むらの火）、福沢諭吉など歴史上の人物から、木村秋則氏奇蹟のリンゴ）、イチロー、ビートたけしなど現在活躍する人物まで、三十七のエピソードを収める。一般的にはそれほど知られていない人物の話も含めて、現代社会に必要な徳目が込められ、心を揺さぶるものが多い。

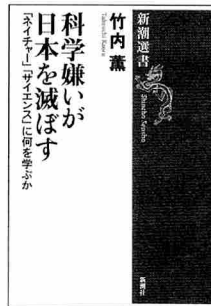
また、編集委員の貝塚茂樹氏（武蔵野大学教授）は、戦後の道徳教育では「国家」「宗教」「天皇」が

意図的に除外されてきたと指摘。本書はそうした内容を取り、戦後教育問題への解答を示している。

タイトルの『道徳教科書』には、将来は道徳を教科として位置付けるべきという同会の強い思いが込められている。本書を利用した指導案を現場教師が作成、出版社ホームページで紹介しており、その内容も興味深い。

科学嫌いが日本を滅ぼす

竹内薫著／新潮選書／一、一五五円（税込）



3・11原発事故後の日本の動きは、科学をよりどころに考えることができない、日本人の科学嫌いが招いた混乱と著者は見る。日本は技術立国といいながら、科学への理解と関心が薄い国だと言う。著者が憤るのは日本政府の科学

「魂の教育」とは何か

人格教育では、子供たちが教師や父母など模範となる人の人格に触れて良い影響を受けることが大切です。また、「人格」の語源には「魂に刻まれたもの」という意味があります。「魂の教育」は人格の核心とも言える魂の無限の可能性に気づき、その魂を強めていくこと、あるいは子供たちが自己の内面の価値に目覚めて人格の形成をなすことだと考えます。例えば、「大自然に大いなるものの存在を感じる」と言いますが、そうした無限の価値、意識のようなものを自分自身の中に見出すことだとも言えるでしょう。

軽視の姿勢。「はやぶさ」が帰還する前年の事業仕分けで、「失敗プロジェクト」と判断し、廃止勧告。世界一のスーパーコンピュータしかり。世界が認める「宝」の科学技術を簡単に切り捨てる日本の科学政策に疑問を呈す。

科学への不信と軽視がもたらす、日本の長期凋落をどうしたらいいか。危機感を強くする著者は、「二大科学誌」「ネイチャー」と「サイエンス」の創刊から今日までを分析することで、日本の科学のあるべき姿を描こうとしている。

例えば、日本人のノーベル賞受賞者は近年多くなってきたが、人口比でみた受賞率は低い。つまりネイチャーやサイエンスに掲載される論文数の少なさ、英語力の弱さがあると指摘する。世界に通用する日本版科学誌の創刊を提言するなど、サイエンスライターらしい科学技術立国ニッポンへの思い入れが感じられる。

子供のスマホ使用は危険

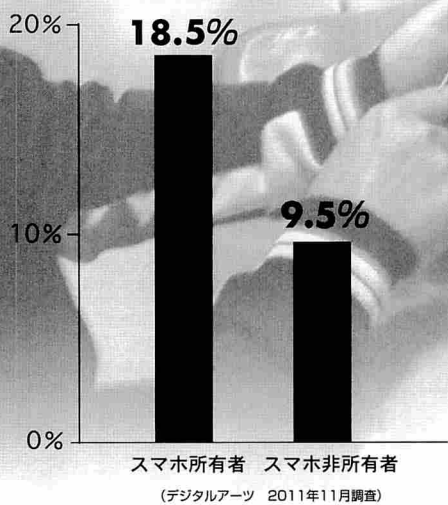
ケータイが普及し始めてから約二十年になります。ところが今、販売店の棚を占領するのはスマートフォン（スマホ）。若者を中心に、急速に普及しています。

若者へのスマホ普及はいずれ一段落しますが、業者が次に販売ターゲットにするのは子供です。通話とメールができれば十分と考える

シニア世代は、スマホにそれほど魅力を感じないからです。あるケータイ会社のサイトをのぞくと、「子供向けアプリもたくさんあります」とあり、子供への普及に力を入れているのが分かります。

しかし、スマホは小さなパソコンであり、子供の利用には多くの危険が潜んでいますから、保護者は注意が

ネット上でトラブルを経験したことがあるか
(全国の10~18歳の男女が回答)



必要です。問題の一つは、アダルト情報などの有害サイトに曝される危険が高いことです。ケータイの場合、有害サイトを遮断するフィルタリングの使用が義務づけられていますが、スマホは有害サイトから子供を守る対策がまだ不十分です。

情報セキュリティメーカーのデジタルアーツの調査では、ネット上の有害サイトを見た経験のある未成年者は、スマホ非所有者の場合三七%だったのに対し、所有者は六四%に上りました。また、所有者の半数にネットで知り合った友人がおり、そのうち三〇%弱が「一人で会いに行きた」と答えています。

毎月第3日曜日は「家庭の日」
11月第3日曜日は「家族の日」

「家庭の日」は、社団法人「青少年育成国民会議」が進めた「家庭の日」運動に端を発し、今ではほとんどの自治体が、第3日曜日を「家庭の日」に定めています。さらに政府や「11月第3日曜日は「家族の日」」その後「週間は「家庭の日」として定められた。この日を機会に、家族の強いつながりを確認できれば、それは家族みんなの素敵な思い出になるでしょう。

「公共の場所などで静かにしてほしいときも、スマートフォンが役立ちます」——これは、スマホが子守り代わりにになると宣伝する業者の広告です。

電車に乗ると、ベビーカーに乗る幼児にスマホを与えてゲームをさせている母親を見かけますが、物心つかない時からスマホでゲームをやってららうなるのでしょうか。タッチパネルを操作するように、何でも指で簡単に動く錯覚してしまい、現実と仮想の区別がつかなくなるのが心配です。とくに、残忍なゲームに夢中になれば、命の大切さが分からなくなってしまう。子供のスマホ使用には慎重かつ十分に注意しましょう。

家庭は愛の学校

真の家庭運動推進協議会

The Association for the Promotion of True Families

TEL:03-6461-7760 FAX:03-6461-7761 http://www.aptf.gr.jp

●皆様の御意見や気づいたことをお寄せ下さい。教育問題に関して、皆様の身の回りでの様々な出来事や御意見などを真の家庭運動推進協議会本部までお寄せ下さい。お寄せいただいたものを参考にしながら、皆様と共によりよい教育環境や家庭づくりに取り組んでいきたいと考えています。



第3種郵便物認可
2012年4月10日発行
毎月10日発行・通巻263号

敵味方区別なく治療／福岡・北海道

歴史と
伝統の
探訪

(左上より時計回りに)高松凌雲(市立函館博物館蔵)、高松凌雲顕彰碑(福岡県小郡市)、五稜郭と函館市内(PIXTA)



江戸から明治への大転換の時代。新政府軍と旧幕府軍の戊辰戦争は、箱館戦争で決着しようとしていた。この箱館戦争に医師として参加した高松凌雲(一八三七〜一九一六)は、日本の赤十字運動の先駆者と言われている。

凌雲は、筑後国御原郡古飯村(現在の福岡県小郡市)に生まれた。医師を志し大阪の適塾に入塾、緒方洪庵の指導を受ける。そして語学に秀でた凌雲は、幕府から將軍徳川慶喜の奥詰医師に登用される。

一八六七年、幕府がパリ万国博覧会に参加する幕府代表団の随行医としてパリに渡り、そのまま留学。パリの病院(HOTEL-DIEU = 神の家)では、貧しい人たちに無料で診療が行われているのを見て、強い影響を受ける。

その後、日本では大政奉還、さらに新政府軍と旧幕府軍の戦争が

起こり、留学一年半で帰国。旧幕府軍に医師として参加する。

箱館病院の院長に就任した凌雲は、負傷者を敵味方区別なく治療した。凌雲の行動に最初は味方から反発もあったというが、凌雲はこれを一蹴。パリの「神の家」で見た診療精神を実行したのである。この行動は、日本の赤十字活動の始まりと言われる。新政府軍が病院に乱入した時も、身をもって負傷兵を守ったという。

箱館戦争が終わると、凌雲は新政府の誘いなどを全て断り、東京で開院。そして一八七九年、貧しい人々を無料で診療する「同愛社」を仲間と創設した。「自分が学んだものを天分として、すべての人ほどこす」(『箱館戦争銘々伝』新人物往来社)。この医療の本質は、まさに凌雲の人生そのものだったのである。目

2012

4

no.263

En-ichi

●発行所
NCU-NEWS
(東西南北統一運動国民連合)

〒160-0022
東京都新宿区新宿5-13-2
成約ビル2F
TEL.03(5362)0631
FAX.03(3354)5017
E-mail news@en-ichi.org
URL http://www.en-ichi.org

●発行人 渡辺久義
京都大学名誉教授

定価 400円

[1年間5000円(送料込み)]

郵便振替番号
00160-3-667291

●本誌に対するご意見、ご感想をお寄せください。
●定期購読のお申し込みは、電話またはEメールでどうぞ。

今月の
焦点

(かつて日本では)子供たちは日々親が見せていた自己犠牲の愛への感動を心の糧にして成長したわけです。自己犠牲は人間の最も美しい姿ですね。…私は、豊かな時代においても、家庭の中に「聖なる空間」を持つべきだと思います。それは例えば、「共感の愛」です。

家庭の中に「聖・美・愛」の価値を実現しよう 永池榮吉…5

ゆがんだ「仲間文化」(ピア・カルチャー) ごと変えていこうという観点でいじめ問題に対応しようとしている…学校をあげての人格教育プログラム実施と地域社会への奉仕などからなる十の方策とプロジェクトだ。

いじめ撲滅に取り組む人格教育プロジェクト-米国…11

思春期というのは今までの自分をいったん解体し、再編していく時です。…その中で、連続性が失われるという体験から、実は大切な問いが生まれていることが分かります。かなり深く「自分とは何だろうか」と考えさせられます。

「中一ギャップ」をどう防ぐか 庄井良信…15

3	巻頭言 魂への配慮としての哲学を	長崎大学名誉教授 篠原駿一郎
4	教育再生への課題と展望 「新しい家庭像」を提案する 家庭の中に「聖・美・愛」の価値を実現しよう	(社)スコレ家庭教育 振興協会会長 永池榮吉
10	ワールドアフェアーズ いじめ撲滅に取り組む人格教育プロジェクト—米国	
12	情報ファイル 小学校教員の38.5%が50代以上 日本の高校生「留学したい」は4カ国中最低	
14	私の教育実践 「中一ギャップ」をどう防ぐか—臨床教育学の視点から	北海道教育大学教授 庄井良信
17	子育ては絵本で大丈夫 「しあわせなぶた」ほんとうの幸せってなんだろう?	劇団天童/ 天童芸術学校代表 浜島代志子
18	病を克服した偉人たち 滝沢馬琴 失明しても書き続けた大作『八犬伝』	
20	教育情報 千葉で人格教育協議会結成大会 ほか	
22	Book Review	
24	歴史と伝統の探訪 沖縄学の父、日琉同祖論唱える／沖縄	